

根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育 2012



☆これまでの取組を総括してみました！※よめないじは、おうちのひとからおしえてもらってネ

4月某日、防災戦隊チャレンジャー参上！チャレンジャーは、これまで、「児童や保護者、地域住民が災害から命を守る知識や技能を身に付けること」を目標として、さまざまな活動を仕組んできました。今年度も残すところ3カ月となり、これまでの取組を振り返ってみました。

そこで、これまでの取組に対して、それぞれ「もしも災害が起きたときに」役に立つ体験ができた(役に立つ知識だ)と思うかどうか、中・高学年の児童(23名)からアンケートに答えてもらいました。

とても思う     どちらかというと思う     どちらかというと思わない     まったく思わない



- ☆運動会でのサプライズ避難訓練・・・
- ☆災害図上訓練(防災・宿泊体験)・・・
- ☆避難所生活(防災・宿泊体験)・・・
- ☆安否札の配布(防災・宿泊体験)・・・
- ☆消火訓練(防災・宿泊体験)・・・
- ☆水防訓練(防災・宿泊体験)・・・
- ☆飲み水調査(防災・宿泊体験)・・・
- ☆防災MISSION・・・
- ☆非常サイレンの日・・・

	0%	50%	100%
☆運動会でのサプライズ避難訓練・・・		96	4
☆災害図上訓練(防災・宿泊体験)・・・		91	9
☆避難所生活(防災・宿泊体験)・・・		100	
☆安否札の配布(防災・宿泊体験)・・・		95	5
☆消火訓練(防災・宿泊体験)・・・		100	
☆水防訓練(防災・宿泊体験)・・・		96	4
☆飲み水調査(防災・宿泊体験)・・・	70		30
☆防災MISSION・・・		87	13
☆非常サイレンの日・・・		83	17

どの取組も肯定的な評価が100%になりました！

☆「運動会でのサプライズ避難訓練」については、新聞報道を見た学校関係者から多くの反響がありました。「すごいね…」「うちの学校でもやってみたい。けど…」・・・地域住民を巻き込んだ防災訓練を始めるファーストステップです！



☆「防災・宿泊体験学習」について「勉強になったこと、ためになったこと」として、児童が1番多くあげたのが避難所研修(23ポイント)でした。特に「プールの水をトイレの水として活用できること(6ポイント)」「食べ物をがまんしたこと(6ポイント)」をあげていました。他に「もしも避難所生活になったら全部大人まかせではなく、子どもたちも指示を出してみんなをひっぱっていくことが分かった。」という感想がありました。立派です！

2番目は消火訓練(10ポイント)で「使い方や消火器を使う前に大きな声で“火事だ！”ということが分かった”などをあげていました。3番目は、災害図上訓練(5ポイント)で「地すべりがおきそうなところを学習して、どこににげればいいのか考えることができた」などをあげていました。

防災・宿泊体験学習に参加した保護者から以下のような好評をいただきました。

「1年生から大人まで一緒に学習できたことはよかったです。勉強になりました。」「(炊き出し担当)カレーはすぐにできてよかった。本当に水がでなかったのも、勉強になりました。」「リアル断水、水が使えずサバイバル気分でした。水の大切さ、洗い物を出さない工夫…少し考えた気がします。衛生面もあります。子どもたちにはそんな知恵をつけてもらいたいと思います。来年もぜひ！」「来年は2泊3日に！」

学校評価保護者アンケートから

・9月6日～7日防災宿泊体験学習は、子供たちにとってとても良い経験だったと思います。図上訓練ではどこに何があるか(飲める水・消火栓など)大人も普段車で通るだけで見逃していることが多いので、今から意識して暮らすことがとても大切だと思いました。(子どもの方が分かっていた)避難所生活でも、みんなで協力することの大切さを実感できたと思います。

## 根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育 2012



☆「根知っ子防災MISSION」への取組について、中・高学年に聞いてみました。

ほとんどの問題を家族といっしょに考えた：30%、どちらかというといっしょに考えた：57%、計87%の児童が家族といっしょにMISSIONに取り組んでいました。

ほとんど自分で考えた：13%の児童は、それはそれで立派なのですが…。この取組は、家族でいっしょに考えることで、防災の知識を児童だけでなく保護者にも広げていくことをねらっています。こうした意味で、ねらいに迫ることができていると考えます。

**GCB48じゅんメンバー13名、みならい生9名 誕生！**

学校評価保護者アンケートから

- ・ミッションの問題は、親も分からない問題があって難しいです。
- ・問題に正解するともらえるカードは、子どもの励みになっています。カードがそろくとゲームができるとのこと、親も楽しみにしています。



現在、これまでのMISSIONを全部クリアした児童には、MISSIONブック（ファイル）を進呈しています。これまで、高学年4名、中学年3名、低学年は・・・です。すべてクリアできるよう、ご協力をお願いいたします。また、ゲットしたカードを使用したゲーム「防災バトルゲーム」の解説書を作っていますので、こちらも楽しみに！

☆「非常サイレンの日」の取組では、「時々サイレンをならして、火事になったときは、こんな感じでやるということが分かった。」という感想がありました。火災報知器のサイレンは、屋内から屋外へ避難させることを目的としているので、屋外にいる児童には（緊張感のない）小さな音しか聞こえません。それでも、**非常サイレンが聞こえたら活動を止め、放送を聞こうとする真剣な姿**が見られます。

学校評価保護者アンケートから

- ・とても良い学習だと思います。起きてほしくないことですが、いざという時は子供たちを中心に学習していることが役に立つと思います。
- ・代替えでの生活方法（ペットボトルでご飯を炊く）や火の焚き方など、非日常的な時の知恵を身につけてほしい。大人になったとき、一つは記憶に残っていると思う。毎年、防災教育の後、一回り成長しているように感じます。ありがとうございました。
- ・災害は起きてほしくはないですが、備えることは大切だと感じています。地域と一体となって学習していて、子どもも自分のこととして学んでいるのではないかと感じています。
- ・子どもの地域理解を深めるのにとてもいいと思います。
- ・地域に起こりうる災害を学ぶことで、より地域理解が深まっていると感じます。親が知らないことも教わってきて感心しています。
- ・子どもから大人まで地区全体で取り組めればと思います。
- ・防災宿泊体験、安否確認札の配布など、防災教育は非常によかったと思います。…中略…安否札は糸魚川市全体の取組になるといいなと感じています。

今年度は、児童が配布した安否札を活用した防災訓練が一部地域で行われたり、公民館で避難訓練と防災研修が行われたりし、学校・地域防災がだんだんと構築されてきました。地域にある唯一の学校、地域における要として、これからも地域とともに防災や社会福祉に取り組んでいきたいと考えています。今後ともこれまで以上のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

